

## 大幅下降局面？ ～ギャン理論から見た原油～

— フェイクの上昇後の世界 — ギャンアナリスト 中原 駿

## 【12年サイクル】

原油相場には、長期12年±2年、(10～14年)のサイクルがあるようだ。戦争期からの価格の落ち着きを示した1946年～1959年～1970年～1986年1月がそれに相当する。それ以降は1986年4月～1998年12月、更に1998年12月～2008年12月。更にこの2008年12月を起点に、このサイクルは2020年12月(2018年12月～2022年12月)にボトムをつけよう。

また、この12年サイクルは4つの2.6年(31カ月：レンジ25～37カ月)サイクルで構成される。

## 【31カ月サイクル】

過去2回の12年サイクルは以下のサイクルに分割される。

・1986年1月～1998年12月の12年サイクル

①：1986年4月～1988年10月(30カ月)

②：1988年10月～1991年2月(28カ月)

③：1991年2月～1993年12月(34カ月)

④：1993年12月～1998年12月(60カ月) — 延長

・1998年12月～2008年12月の12年サイクル

1：1998年12月～2001年11月(35カ月)

2：2001年11月～2004年12月(37カ月)

3：2004年12月～2007年1月(25カ月)

4：2007年1月～2008年12月(23カ月) — 短縮

このように、2つの12年サイクルとも、最終サイクルを除き全て31カ月サイクルのレンジ(25～37カ月)の中に入っている。更にここからの新12年サイクルを見ると、**第一位相はここから34カ月後の2011年10月、更にそこから27カ月後の2014年1月にそれぞれボトムをつけた。ここを起点とした第三位相は25カ月後の2016年2月にボトムをつけ、現在、第四位相の20カ月目に入っている。**この位相は2018年9月±6カ月、即ち来年3月から再来年3月までにボトムをつけると見る事が出来るが、過去の第四位相はいずれも、日柄に歪み(延長か短縮)が生じているので、今回もその可能性は高い。場合によっては、もう一つ31カ月サイクルが入る可能性も否定出来ない。

## 【15.5カ月サイクル】

通常、サイクルの2つないし3つのサブサイクルで構成されるが、この相場の31カ月サイクルは2つの15.5カ月サイクル(レンジ12～19カ月)で構成されているようだ。

相場は2008年12月以降、17カ月—17カ月—13カ月—14カ月—14カ月—11カ月でボトムをつけている。現行サイクルは、第四位相の中の第一15.5カ月サイクルが起点である昨年2月11日の安値26.05から16カ月目にあたる6月21日の42.05でボトムをつけたと見られる。つまり今月は第二15.5カ月サイクルの4カ月目。通常の日柄であれば2018年11月をターゲットに2018年8月～2019年4月に底打ちすると見られるが、過去2回の例を見ても判るように12年サイクルの最終位相は歪む。



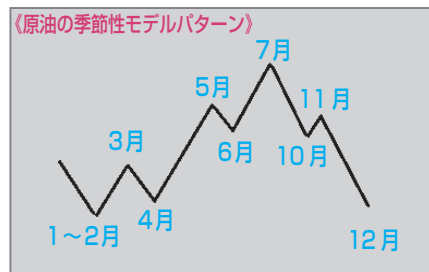
## 【現行12年サイクル】

ここで、もう一度現行12年サイクルを再検証してみよう。

1) 第一位相は強気であった。2011年5月にサイクル内での最高値を記録している。2) 第二位相も強気であった。しかし2013年8月につけた高値は11年5月高値を超え切れなかった。3) 第三位相は弱気であった。2014年6月の高値からの下落過程で、相場は2016年2月11日に26.05を記録。現行12年サイクルの起点である2008年12月19日の32.40を割り込んだ。サイクルの起点を割り込んだ事で、この相場の全体的な基調は弱気に転換した。弱気サイクル内の最安値は、常にサイクルの最終局面、即ちボトム形成時である。4) 従って、現行第四位相はまだボトムをつけていないものの、現行12年サイクルのボトムで最安値が出現する事になるだろう。5) 恐らく、現行第二15.5カ月サイクルは、その日柄の大半を下降局面に費やし、ボトム形成場面で30ドルを割り込み、16年2月安値を割り込むだろう。

## 【季節性相場変動モデル】

また、従来の原油相場には明確に需給からの季節性がある。一般に灯油需要等で在庫を積み上げる8～10月に高値を付け、在庫を減らす12～1月にかけて(実需は旺盛も在庫は通常過剰に積むため)大きく値を下げて



いた。つまり、相場としては8～10月に売り、12～1月の安値を買い向かえばよかった。ただ、ここ20年でパターンに変化が。これは従来先進国における灯油需要で相場が左右されたものが、新興国の需給によって相場が動くようになった構造変化を反映しているものと推定される。

21世紀に入って以降、10～2月に安値を付けるケースは15回中10回と多いが、3～6月に安値を付けるケースも5回と従来比増加している。また高値形成月は従来よりも前倒しされる。

この14年では2月、3月、4月が1回ずつ。5月、6月が2回ずつ。7月が3回。8月が2回。9月が1回。10月が1回である。そのため、7月をコアとして5～8月にピークを付けるのがパターンといえよう。ざっと2か月程度、需要が前倒しされた印象だ。

原油の季節性モデルパターンは年前半ボトム、夏場ピーク、秋に向けて再び下げるというパターンである。現行相場は6月安値を起点に第二15.5カ月サイクルの上昇期に入っているように見えるが、上記の季節性変動モデルに則って考えると、戻りは11月前後までに完了し、そこからボトムに向け下落すると予測する。

## 【アニバーサリー】

以上の記述を総合して、NY原油相場は、いったんレンジをブレイクしたように見せて、その後、長い下降局面に入る可能性が高いと考える。この長期サイクル見通しが正しければ、相場は来年に向けて30ドルをやすやすと割り込んでいくのではないかと。

最後に、過去3年の重要な時間帯(アニバーサリー)をまとめてみた。この中で特に強いと思われる時間帯は太字で記した。これらは得に強い反転が期待出来る日柄と言えよう。

**1月9～13日、1月29～30日、2月3日、3月3～4日、3月17～18日、4月1日、4月16～18日、5月1～6日、5月25～28日、6月13日、6月19～24日、7月15～19日、8月8日、8月21～24日、8月28～31日、9月16日、10月9日、10月19日、11月7～12日、11月27日、12月16～18日、12月22～27日。**

# ガテクニカル ウエッジ上限に向け加速

これまでの日経平均株価のシナリオは次の通り「ウエッジ上限に向けての上昇が基本トレンド。10月はこの上限線が20,800±70あたりに存在する。ブレイクアウトは兼ねてからの目標値21,400±250に向かうだろう。しかし上限線前後で阻まれた後、9月の週間ギャップを埋めて引ければ上昇は一旦終了と見た方が良さそう。このケースでは高値から10%以上の下げを見る恐れがある。仮にこの高値が20,800あたりなら、10%の下落は18,900前後となる。これは前回のプライマリーサイクルのスタート直後（4月17日）に発生した週間ギャップ（18,648～18,840）近辺となる」。

日経平均はウエッジ上限に向けて上昇中。昨年6月24日安値を起点とした新8年サイクルはまだ1年4カ月しか経過していない。その意味では長期のサイクルは依然として上昇。その間、現在までの中期サイクルは20週～23週～20週と3つ刻まれ、何れも強気型サイクル。9月8日を起点としたこのサイクルは今週は5週目に入る。強気型を想定したサイクルベースから見ればまだ天井は打たない。過去3つの上昇期間は18

週～16週～9週であった。このサイクルの上昇を支えているが20週移動平均。先週は19,942。このレベルは丁度9月の週間ギャップが発生した価格帯（19,933～20,122）に位置している。基本戦略はこのギャップを埋めるまで強気を維持する。あとはトピックス先物との弱気ダイバージェンスの出現には注意しておく。両市場は2015年の高値を目指しており、どちらかが更新しても、他方が失敗すれば警戒すべき弱気シグナルとなる。



## 今週の必し押し 利食いドテン買い推奨

サプライズにならなかった事がむしろサプライズであった。

先週末発表された9月の雇用統計はNFPが前月比3.3万人減と2010年以降で初のマイナスを記録。しかし、平均時給が市場予想より0.2%増え（0.5%増）、失業率は16年ぶりの4.2%となった事で、この現象を市場はハリケーンの影響と解釈した。

その結果、ドル指数の上昇は継続し先週末の時点で94を上回り、逆にユーロ/ドルは1.1669まで売られる。これは2週間前の当欄で「ドル指数で94付近、ユーロドルで1.1650を目指す」と見ると。この流れは数週間続こう」と予測した通りの展開になっている。ただ今週は反転上昇するかも知れない。

先ず、15日スローストキャスティクスが先週末の段階で12～13%と前週の水準よりも上昇している。この時、相場は8月17日の1.1662以来の安値水準まで下落しており、強気オシレーターダイバージェンスが発生した可能性が出ている。

次に、日柄面で先週は1月3日の安値から39週目であった。以前から述べているが2015年3月以降、安値から38週、29週、28週目で安値をつけていた。ここでの安値は節目となりやすい。

更にチャートパターンの観点からは、1月3日の安値に起因するトレンドラインを用いたチャネルラインの上限エリアに先週の安値で突入した事に加え、前週からの日足の線形はウェッジパターンと呼ばれる反転急上昇を示唆するパターンに見える。今週、相場が1.1630～1.1700付近を維持するか、反転して69日移動平均がある1.1750付近を引け値で上回るようなら、恐らく先週の安値は30週前後の新たなサイクルの起点になっている公算が高い。サイクルの序盤は強気である事から、今週は既存の売り玉を全て利食いし、買いに転じる事を推奨する。

今後の相場基調の強弱を問わず、目先は少なくとも23日移動平均付近までの上昇は見込めるだろう。そこで3分の1程度の利食いを行っても構わない。何故なら、これは先週も指摘したが、現行相場は8日高値を頭、8月安値を左肩、そして先週6日の安値を右肩に新たな三尊天井を形成するかも知れないからだ。

## 今週の主な予定・経済統計

### 10月9日(月)

- ・【日本】体育の日で休場
- ・ユーロ圏財務相会合
- ・【米国】コロンブスデーで為替・債券市場は休場

### 10月10日(火)

- ・衆議院選挙公示
- ・地区連銀総裁、各地で講演
- ・EU財務相理事会
- ・IMF世界経済見通し
- ・北朝鮮、朝鮮労働党創建記念日

### 10月11日(水)

- ・米3年債と10年債入札（240億ドルと200億ドル）
- ・米FOMC議事録（9月20日分）
- ・地区連銀総裁、各地で講演
- ・OPEC月報
- ・中国共産党第18期中央委員会第7回総会

### 10月12日(木)・・・下弦

- ・9月の米卸売物価指数（前月比0.4%上昇予想、前月は0.2%上昇）
- ・同コア指数（0.2%の上昇予想、前月は0.1%上昇）
- ・米30年債入札（150億ドル：総額で560億ドル）
- ・米週間新規失業保険申請件数（前週は26万件）

### 10月13日(金)

- ・10月の米ミシガン大消費者信頼感指数（95.0の予想、前月は95.1）
- ・9月の米小売売上高（前月比1.6%上昇予想、前月は0.2%低下）
- ・8月の米企業在庫（前月比0.5%増加の予想、前月は0.2%増加）
- ・9月の米消費者物価指数（前月比0.6%上昇予想、前月は0.4%上昇）
- ・同コア指数（前月比0.2%上昇予想、前月は0.2%上昇）
- ・9月の中国貿易統計・地区連銀総裁、各地で講演
- ・IMF・世銀、年次総会



### 今週の相場風林語録

**マド（ギャップ）は二ツ目までついて行き、三ツ目から売り向かえ【2】**

下げの場合は大相場の後では、四ツも五ツも窓をあけて崩れていくから底が確認されるまではギャップに向かえない。



今週の**九星★波動**

新月盤は極端に注意

南雲 紫蘭

市場参加者の本音を一語で表すと「青天の霹靂」でしょうか。野党が選挙準備が出来ず、一連のアベノスキャンダルも落ち着いたかに見えたこの時期こそ総選挙には絶好機、まさに「後にも先にもこれほどの環境はない」（首相筋）と思われましたが、蓋を開けると、ここ数年で最大の敗北を期した小池都知事が「希望の党」を立ち上げるだけでなく、民主党の左を切り「新保守」として出現したのです。そしてリベラルは袂を分かち、非常に判りやすい保守系保守、新保守、リベラル、共産と別れたのです。主義主張が食い合わずいつまでも野合の輩とされていた民主党より、はるかに選挙戦は戦いやすいのではないのでしょうか。

逆に言えば、安倍政権は想像以上に危うい。そんな気がしてなりません。同じ保守なら消費税率引き上げは反対している小池新党のほうが明瞭で、しかも規制緩和、既得権益への反対を訴えています。「選挙のための党」というリスクも民主党左派

## 相場指南道場

## トレーダーあすなろ物語 (415)

中原 駿

グッドバイはシンガポールのだ真ん中、ラッフルズ・プレイスの目立つ高層ビル、UOB プラザの最上階にあった。

グッドバイはその高層階からの眺望を売り物として、顧客向けのバーをやっていた。

バーでは軽食もとれるし、ある一定の階層以上であれば、アルコールも原則無料であった。

恵まれていた時代だ。

そして、金融危機などが起こるとは夢にも思わない時代だったのだ。

上野は、それでも正常な感覚を持っていたほうだったといえる — そう、部下の巨額損失以外に関しては。



## 金のフラクタル復活

テクニカルアナリスト 葛城 北斗

## アバウトに捉えておく

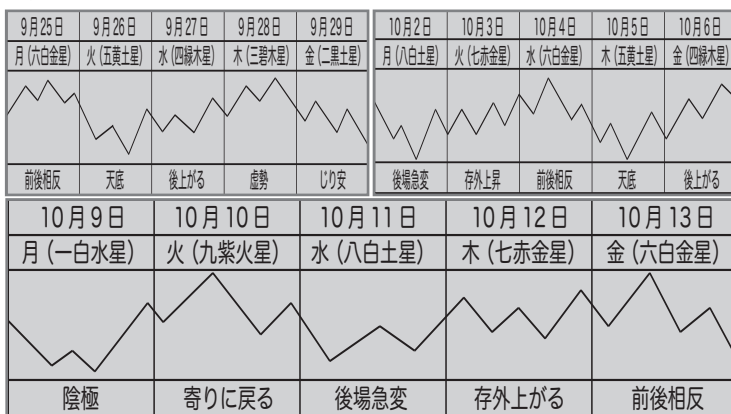
ドル円相場は9月8日107円台で安値を付けた後4週連続上昇。この上昇は以前ご紹介した金のフラクタルの再現となった。非常に悔やまれるのは9月8日にレンジ下限をブレイクしたことでこのフラクタルを放棄してしまったことだ。無論両者が完全に一致することはないと分かっているが、4月の安値更新は重要なテクニカルポイントであった。結果的にこの下げがダマシであったが、それは仕方がないこと。あの時点で弱気に転じるのはトレーダーとしては常識。ダマシでなければ101円台まで急落してもおかしくない動きであったからだ。

ダマシは別段悔やまれることではない。相場世界では頻繁に起こりうることだ。それを気にしては相場は張れない。ダマシに早く気づき、対処できればよい。

ただ、8月に想定していた金とのフラクタルがこの反騰場面で一致したことに気づくのが遅れてしまった。当時のコメントを参照すれば「現在のドル円と同じような波動パターンを示した市場がある。それはNY金であるが、ドル円の6月、7月のダブルトップが時間はズレるがNY金でも4月、6月に出現した。2市場の2つの高値を重ね合わせると現在のドル円相場の下げが金の6月の動きを再現している。今後期待されるのは、金が7月にM型の安値を付けて反発したような動きがドル円でも再現されるか注目したい。……今まさにこのシナリオ通り

を切り捨てた事によってわかりやすくなりました。案外、希望の党は台風目になるかもしれません。

さて九星高下伝は10月8日から新月盤《九紫火星》に入っています。何事も極端な値動きにつながりやすいので注意が必要です。最初は急騰、そして急落に注意です。



そして、少々鼻白む思いで、ブローカーの派手なバーや接待を眺めていた。

だが、今日はそうした理性的な対応はむしろ好ましくないのだった。上野は大胆になる必要があったし、そうでなければ、グッドバイがいくら邦銀および機関投資家に興味があったとしても、政府投資局の壁はそう簡単なものではないはずだ。

シンガポールに沈むとても大きな夕陽を眺めていると、その夕陽は自分のようにも、その燃え尽きる姿はシンガポール支店、いや自分の属している銀行のようにも思えるのだが、そうした感傷はここでは捨て去らなければ…。

とにかく、とても明るく大胆な、特別なミッションを持っている人間に見せなければならない。そのためにはある程度のはっきりも必要だ。上野は夕陽に向かって何度か深呼吸をしながら、逸る心臓を落ち着かせようとした。

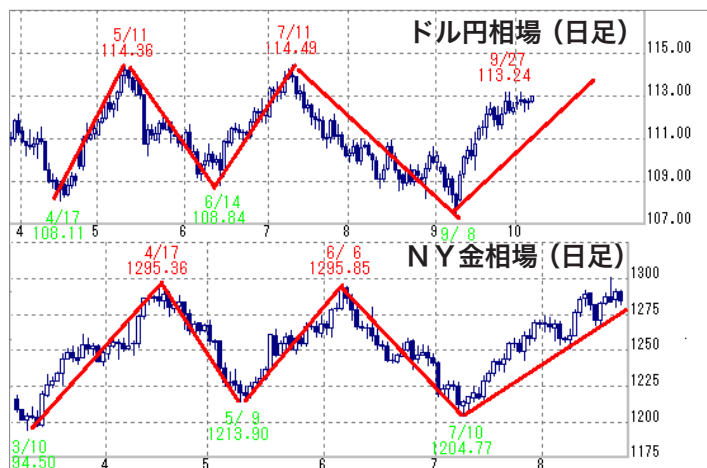
ここが勝負なのだ…。これから勝負するのだ…。

展開されている。フラクタルのM型フォーメーションでいけば、日柄、値幅ともにまさに今がボトムである。これにかけるなら107円以下の引け値にストップを置き今週買いで攻めることになる。ボトム打ち後は現在の金が高値に迫っている如く、ドル円相場も同様の展開が期待できる」。

8月7、14日号で掲載したのだが、その後、何度も下値を試す展開に忍耐が続かなかった。もう少しアバウトに眺めておく方が良かったかもしれないと反省する次第。

再び下のチャートに掲載しておくが、ぼんやりと眺めておくのが良いかもしれない。

これまでのストラテジーは次の通り。「113円台利食いした投資家は再び高値更新を狙って112円台でロングを狙う。ストップは111円割れの引け値に設定」。次は114円台を狙う。



## サイクルだけ話します。

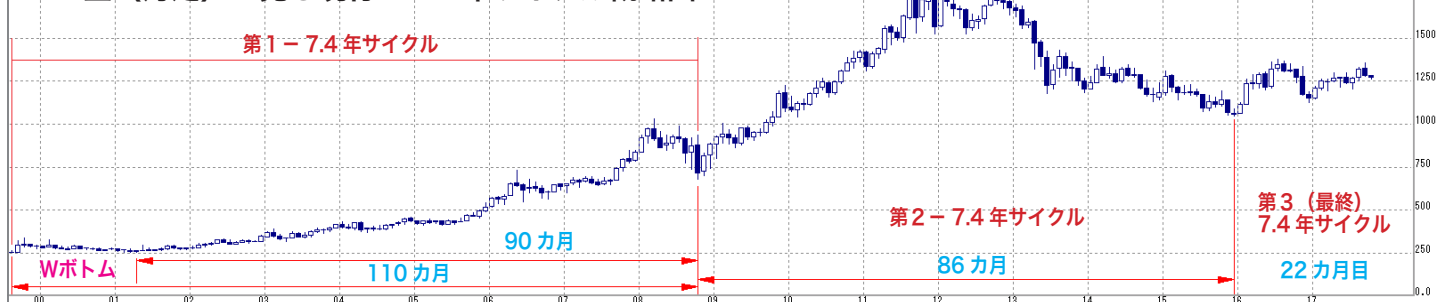
— メリマン・サイクル理論 備忘録 —

## 【第60回】NY金のサイクルについて (6)

前回、NY金の長期サイクルは22.5年(270カ月)。更に、このサイクルは7.4年(約89カ月)で3分割されるとしました。

ただ99年8月25日の255.80から08年10月24日の681までは110カ月と長すぎます。しかし、この長期相場サイクルはダブルボトムであったので01年4月2日の258.20から起算すると90カ月。7.4年サイクルは±15カ月のオーブ(許容範囲)

## NY金(月足)で見る現行22.5年サイクル概略図



## メリマン通信 — 金融アストロロジーへの誘い —

## 木星のサインチェンジについて

木星は「バブルの星」である、と筆者は各所で述べている。拡張・拡大を表す星で、古来から「吉星」とみなされてきた。また、株式や原油に関係する星で、金相場とは相性が悪い。その木星が10月10日に天秤座から蠍座にサインチェンジする。

毎年、メリマン氏は年間予測本の米国株の欄の最後に木星に関する記述をしている事は意外に知られていない。『フォーキャスト2017』でも、10月10日のサインチェンジに関する記述が。“木星の蠍座入居は、2018年11月8日まで続く。木星が入居している星座サインに関連する株式セクターは、マーケット全般の中で他のセクターより上昇する傾向がある”と述べている。

これに関して、最新の「MMA日経週報」では投資銀行の好調の可能性を示唆していた。少なくとも先週までと今週からとでは、木星サインチェンジを境に投資家心理のシフトの可能性がある。因みに、木星が天秤座に入居していた10月10日までに関連セクターとして会計、化粧品、ファッション、ジュエリー、

があるので、ここが最初のボトムであったと見る事が出来ます。

更に、この08年の安値から86カ月後が15年12月3日の1,045.40。相場はこの安値から安値を切り上げているので、ここで2つ目の7.4年サイクルがボトムを打ったとみるべきです。従って、現行22.5年サイクルは、最後の7.4年サイクルを目下形成中であるという事になります。現在は22カ月目です。

7.4年サイクルのサブサイクルは日柄が短縮される前、3つの34カ月サイクルに分割されると見られていましたが、現在は31～32カ月、前後に5カ月程度のオーブを有して存在していると思われます。今回は、このサイクルについて解説します。

アパレル、砂糖及び精糖、法律関連銘柄が良いとされていた。筆者は個別株まで追いかけていないのだが、興味のある方は検証してみてください。

さて、先週の日経平均株価と米ドルは6日に週の高値、ユーロ/ドルは週の安値を記録。これは米国時間5日(日本時間6日)の金星・火星コンジャンクション(0度)と新月が影響した可能性が。問題は8日の金星・土星スクエア(90度)や、週明けの火星・土星スクエアが反転に働くか、加速に働くかである。

木星が拡張・拡大を表す星に対し、土星は縮小や引き締めを表す星である。実は『フォーキャスト2017』の記述で、木星の次に土星の記述が続く。そこでは“…土星が入居している星座サインに関連する株式セクターは、マーケット全般の中で他のセクターより下落する傾向が少なくない。土星は2015年9月18日～2017年12月20日まで射手座に入居している。射手座に関連するセクターは旅行関連、航空会社、ホテル(この業種は蟹座とも関連する)輸出入関連、出版、スポーツ関連、宗教及び教育教材、そして学用品。土星の射手座入居期間中、上記のセクターは下落が予想され、底値をつけやすい”と記されている。

## WEBサイトより一足早く、1週間分まとめ読み！！

## 今週のアストロロジー info

- 10月9日(月) 10連敗時に資金の3割を失う程度のストップを設定すべし
- 10月10日(火) 国内市場マド開け
- 10月11日(水) 儲かり難い相場が続く
- 10月12日(木) 既に気は転換しているはず
- 10月13日(金) 底打ち、天井打ちフォーメーションを注視
- 10月14日(土) メイントレンドでは乗せ  
マイナートレンドでは逆張り
- 10月15日(日) 底値が将来の天井を示唆する(ギャン理論)

高く仕入れて安値で投げる投資家から  
脱却してアクティブブシニアになろう！

- 四半世紀以上、投資の最前線で活躍してきた「プロ中のプロ」が語る現在の株式市場とは
- ◎マイナス金利時代に株を持ち続けて成功する秘訣を解き明かす
- ◎10倍になる株など豊富な実例で銘柄発掘の心得を公開！
- ◎株式投資の実践編として〈有望銘柄掲載〉！



## 株で資産を蓄える

～バフェットに学ぶ失敗しない長期株式投資の法則～

S・アダチ&カンパニー  
代表取締役社長

足立 眞一 著

発行：開拓社 定価：1,296円(税込み)

## フォーキャストのその先へ 2017年ファイナル

## 【2017年 秋季勉強会】 — 来年に向け、如何に儲けるか —

四半期ごとに年4回開催しているこの勉強会。今年最後の勉強会では、これまでにお伝えできなかった事象も含め、従来よりも2倍「有用」にして「重要」な内容を皆様にお伝えします！

講師	日時
＜第1部＞ マーケットクロスオーバー Vol.2 金融経済アナリスト 神成 厚至	10月28日(土)13:00～17:00
＜第2部＞ 年後半の儲けの機会を探る	貸会議室日本橋清新丹 東京都中央区日本橋人形町1-4-10 人形町センタービル2階
株式会社投資日報社 代表取締役 楠木 高明	参加費 ＜懇親会なし＞14,040円(税込) ＜懇親会あり＞18,040円(税込)

※お席に限りがございますのでお早めにお申し込みください。

※既に申し込まれた方への入金のご案内をさせていただきます。

※登録完了されたお客様には10月中旬までに受講票にご案内の用紙をお送りします。

■ 詳細・お申し込みはこちらから

(株) 投資日報社 電話：03-3669-0278

<http://www.toushinippou.co.jp/>

東京都中央区日本橋人形町3-12-11GRANDE人形町6階

&lt;セミナー&gt;内【2017年秋季勉強会】よりお申し込みください